

テーマ：『 市街化の小学校における自然との関わりを通じた感性を育む環境教育 』

横浜市立 本町小学校

Tel. 045-231-0141 担当者 遠藤 健一郎



■実践内容:

本町小学校では、環境学習を進めるにあたり、3つの柱(①ビオトープ作り②未来エネルギー③住環境)を立て、4・5・6年の縦割りグループで取り組みました。①のグループでは、子どもたちが畑だった土地に穴を掘り、池を造りました。人工物をほとんど使わず、自然の粘土や横浜産の植物を使い、自然そのままの池を再現しました。約10種類のヤゴが確認され、さらに現在もう一つの池を造っている途中です。

②のグループでは、日産自動車「環境・安全技術部」の皆さんに未来のエネルギーや未来の車について教えていただきました。現在の地球が抱えている環境問題や車を動かすエネルギーの話など、本来は難しいであろう話を写真や絵・グラフなどを交えて、とても分かりやすく教えてくださいました。そこから「自分たちでエネルギーを作ってみたい!」という思いをもち、太陽熱を利用したお茶作りや、身近な物(レモン、備長炭)を使った電気作りに取り組みました。また、日産自動車の方による「ものづくりキャラバン」では、現在の、環境に優しい自動車作りの話をさせていただきました。

③のグループでは、生活しやすい学校環境づくりをテーマに学習に取り組みました。まずは、自分たちが生活している校舎の温度を計測し、夏に涼しく生活するために、緑のカーテンづくりに取組みました。今夏はなかなかうまく育たなかったもので、来年の夏に向けて、どう改善していくかを話し合っています。

また低学年(1・2・3年)では、縦割りグループによる植物栽培活動を行っています。当番を決め、異学年と関わりながら学校の敷地内を植物で彩っています。

■実践成果:

市街地に住む子どもたちにとって、自然の生き物をとても珍しく、電気は当然コンセントからつながっているものであり、暑かったらクーラー、寒かったら暖房が当然でした。それが、自分たちの手で造った池に生き物が住みつき、電気を自分たちで作る、住みやすい環境のために工夫をする経験を通して、その大変さ、大切さ、感動を感じる事ができたようでした。そして「環境」について、親近感をもち、自分ごととして考えるきっかけとなりました。

■実践ポイント:

なるべく自分たちで「環境」を体感できるように、ということをポイントにしました。実際に「見る・聞く・触る」を基本に、友達と話し合い、考えを試せるようにしていきました。子どもたちの疑問や発見を生かしたり、必要があれば教師から投げかけたりして、課題がもてるようにしました。また、3つのグループでは、定期的に情報交換をしたり、活動を共有したりしながら学習を進めるようにしました。